

事業の目的

ユーカリを活用した森づくりの知見を活かし、各地域の特性に即し、
共生し、持続性のある木質バイオマスの生産方法を確立すること

事業概要



ユーカリ挿し木試験



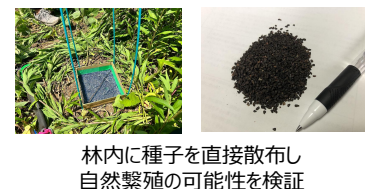
引張試験・根系調査



植林用機器の開発



逸出試験



今後

課題と今後の取組

実用化・事業化の取組



ユーカリの森林が「間伐材等由来の木質バイオマス」区分で取り扱うことが可能に!
病害・災害木が多く現存する千葉県森林の再生、解決の一助となる



一方で

早生樹(新規樹種)への社会的認知・容認は未だ圧倒的に不足

- ◆ 山林所有者・行政の理解・承認プロセスの長期化
- ◆ (地域/市町村) 森林整備計画の対象樹種ではないことによる補助制度の不足
- ◆ 山林の集約化が不十分であることによる事業の鈍化(従来からの課題)

本実証を通じて「エビデンスの強化」「密な自治体連携」「エネ森制度化」を図る

グループ会社である「JRE神栖バイオマス発電所」へ販売し、FIT制度に基づき、「間伐材等由来の木質バイオマス」として販売した場合、以下の収益が見込まれる。
収益は10年伐期を想定し、2032年から発生する見込み

	販売単価	販売数	売上	製品原価	収益
2032年	24,800円/絶乾t	363絶乾t	9.0百万円	24,800円/絶乾t	6.9百万円
2033年	24,800円/絶乾t	1,210絶乾t	30.1百万円	24,800円/絶乾t	23.2百万円
~~					
2036年	24,800円/絶乾t	12,100絶乾t	300百万円	24,800円/絶乾t	288百万円